

ガバナー補佐ご挨拶

国際ロータリー第 2530 地区
2025-26 年度県北第一分区ガバナー補佐
相良 元章 (福島 RC)



県北第一分区ガバナー補佐方針

『例会ルネサンス』をはじめよう！

私たち日本のロータリーは、100 年以上にわたり地域社会への奉仕と国際的なネットワークを築く重要な役割を担って来ましたが、近年いくつかの課題に直面しています。クラブ毎に程度の違いはあるものの、以下に挙げる代表的な課題はどのクラブにも当てはまる項目があるのではないのでしょうか。

【ロータリーの現状と課題】

1. 会員の高齢化と若年会員、女性会員の不足による会員減少
1996 年には 13 万人だった日本のロータリアンは昨年には 8.3 万人程度にまで減少し、女性会員の比率も世界平均の 23% に対し、日本では 7% とかなり低い状態です。閉鎖的・保守的なイメージが若者や女性を遠ざけているのかも知れません。
2. クラブ活動の形骸化と運営の硬直化、高コスト化
例会や奉仕活動が形式的になり、新鮮さや魅力が低下し参加意識も低下しているとの指摘もあります。また伝統的な運営スタイルと高額な会費が、若年層や多忙な職業人の参加を妨げる原因となっていると言われています。
3. デジタル化への対応遅れ
オンラインでの活動や情報発信が一般化するなか、デジタル技術の活用が遅れており、柔軟かつ安価なクラブ運営や若年層へのアプローチが難しくなっています。
4. 地域ニーズとのミスマッチとロータリー認知度の低下
時代が進むにつれて地域のニーズも変化し多様化しているにも関わらず、現状に合わない奉仕活動が長年継続しているケースも見られます。参加する会員のモチベーションが低く、社会的なインパクトも弱い印象があります。

【例会ルネサンス】

こうした現状と課題の多くは、どこか遠いところの話ではなく自分たちのクラブでも確実に起こっているのですから、いま私たちが何とかしなければなりません。

そこで今年度は手始めに、県北第一分区の全クラブで例会の目的や機能を見直し、活性化を図る「例会改革」に取り組むことを提案します。

私が言うまでもなく、例会はクラブ運営の基礎であります。

例会の出席はロータリアンの基本的な責務であり、お互いを理解しあう場であり、学びの場であり、新たな出会いの場でもあります。

充実した例会が行わなければ、インパクトある奉仕活動も愛情あふれる会員拡大も効果的な自己研鑽も生まれません。これは皆さんご承知の通りであります。

そんな重要な目的を持つ例会が、最近形骸化していると感じたことはありませんか。

私たちの例会が本来の意味や機能を取り戻せるように、今年度は新たなアイデア、新たな取組み、新たな工夫を例会に取り入れましょう。

そして全ての会員が例会に出席して「楽しかった、嬉しかった、勉強になった、新たな出会いがあった」更に「例会に来て良かった、また来週も楽しみ」と心から感じ合えた時、私たちはクラブと自身の変化に気づくことでしょう。

その変化の正体は「クラブ愛」です。全ての会員の心に以前にも増した強い「クラブ愛」が生まれれば前述の現状と課題の解決は全く造作ないことだと私は思っています。

私はこの改革プロジェクトを『例会ルネサンス』※と“勝手に”名付けました。

【例会ルネサンスの具体的な取り組み】

楽しく意義ある例会運営を図るために、私なりのアイデアをいくつか示したいと思います。

1. 会長あいさつ、会長の時間の充実

PETS での基調講演（寒河江 RC 鈴木一作 PG）の中で、「会長あいさつに命を賭けろ」というメッセージがありました。会長あいさつの出来で例会の成功が決まるという例えだと私は理解しました。会長自らが学び、語り、ワクワクすることが肝心だと思います。

2. 合同例会の開催

今までも合同例会は開催されていると思いますが、今年は別なクラブとペアになってみませんか。区内でも外でも結構です。新たな気付きがきっとあるはずですよ。

3. メーキャップの推奨

皆さんは今まで何回メーキャップしたことがありますか。メーキャップは世界中の RC に行けるパスポートであり驚きと気付きと感動に溢れています。旅行や出張のついででも結構です。ぜひ若い会員を誘って遠慮せずにお邪魔しましょう。

4. 100%出席例会チャレンジ

私の身近では最近、100%出席例会達成の事例を耳にしておりません。今年度はダメでチャレンジしませんか。そしてロータリーの友や新聞に投稿しましょう。

5. 斬新な席次

同じクラブの中で一度も話したことの無い会員はいませんか。委員会ごと、誕生月ごと、干支ごと、血液型ごと、何でも結構です。席次が変われば新たな出会いが広がります。

6. 楽しい例会のテーマやドレスコードの設定

毎回スーツにネクタイじゃつまりません。アロハシャツ例会やコスプレ例会、ワークウェアで職業奉仕をテーマに語り合うという企画はいかがですか。指定した色をワンポイントで取り入れたおしゃれ例会も楽しそうです。

7. 新たなアイデアで例会に変化を

上記以外にも、卓話者の充実、司会者やソングリーダーの交代、未知のロータリーソングに初挑戦、新会員歓迎の工夫や食事のアレンジ、オープン例会、移動例会などアイデアは無限です。ぜひ簡単なことからいつもの例会に変化を起こしていきましょう。失敗してもいいじゃありませんか。また改めればいいのですから。

【県北第一分区 7 クラブとしてのプライド】

私はロータリーが大好きです。

そんな愛するロータリーのメリットを私なりに端的に表現すれば、それは「交流・成長・奉仕・ネットワーク」の素晴らしさであります。

もちろん自分のクラブも好きですし、皆で汗をかく奉仕活動や RI の理念や取り組み、研修プログラムの充実も好ましく思っています。

そして何よりもそこで活動している人たちが大好きです。

対価を求めずむしろ自分の時間や資金を投じて、額に汗をかいて地道に奉仕活動を続けているロータリアンを私は心から尊敬しています。

そんな素晴らしいロータリーが現状の課題を解決しこれからも成長し続けることができるように、この第 2530 地区県北第一分区から何かを変えていきませんか。

そして私たち 7 クラブがこの地区をリードしているというプライドを胸に、『例会ルネサンス』からクラブルネサンス、そしてロータリールネサンスとこの取り組みを広げていきましょう。

今年度の泉田征慶ガバナーは「クラブ例会と奉仕活動の充実」を年度方針に掲げており、『例会ルネサンス』の取り組みの後ろ盾としてたいへん頼もしく感じています。

私も三宅一秀氏、岩見孝之氏二人の分区幹事、小澤陽子事務局員と力を合わせて、1 年間全力で皆さんをサポートしてまいります。

「例会が変わればクラブが変わる、

クラブが変わればロータリーが変わる、

ロータリーが変われば世界が変わる」

さあ一緒に世界と未来を変える第一歩を踏み出しましょう。

※ルネサンスとは、14～16 世紀にヨーロッパで起こった文化・文芸の革新運動で「再生」という意味です。古代ギリシア・ローマの文化を規範として、人間性の復興を目指しました。そのルネサンスになぞらえ、ロータリーの歴史や文化を尊重しつつも、現代の RC 会員と社会の多様なニーズに寄り添ったクラブ運営を、今一度模索するという意味で『例会ルネサンス』と名付けました。

*****プロフィール*****

■生年月日 1966（昭和41）年12月20日

■所属クラブ 福島ロータリークラブ

■職業分類 ガス供給

■事業所名 アポログループ株式会社

■役職 代表取締役 CEO

■勤務先住所 〒960-8031

福島県福島市栄町6-1 エスタビル8階

TEL 024-572-5255

FAX 024-572-3883

E-mail coqdo@me.com

■最終学歴 明治大学 政治経済学部経済学科

■ロータリー歴

2011年2月2日 福島ロータリークラブ入会

2017-18年 クラブ幹事

2018-19年 地区公共イメージチーム リーダー

2019-20年 地区公共イメージIT委員会 委員長

2020-21年 同上

2021-22年 同上

2022-23年 クラブ会長

2023-24年 地区代表副幹事・ロータリーの友地区代表委員

2024-25年 地区ロータリー財団補助金委員会 委員長

RLI委員会 ファシリテーター

2025-26年 県北第一分区ガバナー補佐

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー（+8）

メジャードナー

ベネファクター

ポリオプラス・ソサエティ

第8回米山功労者 マルチプル

環境の持続可能性ロータリー行動グループ（ESRAG）所属

サーフィンロータリー親睦活動グループ（SURFES UNITE）所属